



ゆっこら通信

社会福祉法人ゆっこら

〒301-0834

茨城県龍ケ崎市古城 3204

電話番号 0297-85-4301

<http://yukkora.jp/>



精神障害への偏見・差別の歴史を変えよう

社会福祉法人ゆっこら 理事長 杉江 彰

精神障害への偏見の歴史は古く、日本最古の法令とされる大宝律令にも記述があります。1000年にも及ぶ封建時代が終焉して近代の民主主義の時代に入って150年になろうとするのに、日本国内でもまだ差別・偏見は横行しています。日本は人権が憲法で保障されて70年が経過しています。

精神障害者が、福祉の対象となる存在として法律で認められたのはまだ、20年前です。他の障害と比べてもあまりにも遅い。だから制度の面でも差別が残存しています。10年前に障害者自立支援法（現在は、障害者総合支援法に名称変更）ができたとき、障害種別の福祉サービスが一本化されました。しかし、全国的にJRの障害者割引は精神障害者には適用されていません。医療費無料の地方自治体のサービスは、数県で精神障害者手帳2級所持者の医療費無料が実現していますが、多くの都道府県では、精神障害者医療費無料制度が1級のみという差別が残存のままの現状です。茨城県でも身体障害者と知的障害者の医療費無料制度は1級、2級であるのに、精神障害者は1級のみと、差別されています。

茨城県精神保健福祉会連合会は50年前に結成されて、精神障害の保健福祉のために運動を続けてきました。今は、この医療費無料制度の、障害による差別を解消しようと力を入れています。

2016年11月13日のつくば市長選挙で当選した、いがらし立青（たつお）市長は、選挙公約の中でつくば精神保健福祉会（やすらぎの会）からの要望を受け止めて、「精神障害に対して他の障害と同様の理解とサービスを広める支援（医療費助成や交通運賃割引、学習機会の確保など）」と精神障害者への差別を是正することを約束しています。これは差別・偏見をなくす方向にとって喜ばしい出来事です。2017年に、精神障害者への医療サービスの差別が撤廃されるよう願うものです。



グループホーム 古城の家 ～2017年を迎えて～



古城の家 田代 弘美 川道奈央子

新しい年が明けました。いつも古城の家を温かく見守っていただき、ありがとうございます。今年も変わらず、安心して過ごせる一年にしていきたいです。

2016年は、自分の時間、生活ペースを大切にしながら、「余暇を楽しむ」を意識した一年だったように思います。

毎週金曜日の終礼の時に希望を出し合い、牛久市自然観察の森でのお花見、流しそうめん大会参加、牛久大仏参拝、ボーリング、カラオケ、外食会、地域でのお祭り参加等の余暇活動を行いました。

写真は外食会の様子です。年2～3回外食会を催しています。場所はアンケートを取り決定しています。最近は好きな物がたくさん食べれる「すたみな太郎」が恒例となっています。



また、古城の家では毎回異なるテーマで意見を出し合う「古城の集い」を不定期で開催しています。「気が合う人、合わない人」、「家族と上手に付き合う方法」、「自分のことを相手に伝えてみる」など今悩んでいることなどをテーマにしながら意見交換をしています。

今年も古城の家は、心のゆとりと温かく美味しい食事提供が出来るよう取り組んでいきたいと思っています。

今年も宜しくお願いいたします。



志す「文の道」を

ゆうあいワークイン

ペンネーム 島津 謙信

それは「妄想」から始まりました。入院中、今は亡き父に「俺は作家になる」と話した事から、文筆活動に取り組むようになりました。県主催の読書感想文に応募したり、保健センターに、詩を飾らせていただいたりしましたが、結果は良くありませんでした。転機となったのは、「こころの元気」という雑誌に2回、詩と作文を載せていただき、自信につながった事でした。それを機に、市の俳句会に入会し、佳作を3回いただきました。2年間在籍した後、「ホトトギス」という「正岡子規」「芥川龍之介」などの文豪が、在籍していた俳句会の先生に、ご自身の句集をプレゼントされ、文学への志が強く芽生えました。

また NHK 主催のハート展という、障がい者の詩と、著名人がそれに合わせた絵をコラボレーションする作品展に、3回挑戦した後、入選いたしました。私の作品には、女優の「根本りつ子」さんが絵を提供していただきました。「妄想」から「現実」になるよう、精進いたすところです。作品を一部ご紹介いたします。

●俳句

「春の土 匂いに惹かれ 一日と」 「秋風や 元気ですかと 兄の文」
「道端に 軍手ぽつりと 余寒かな」

●詩

僕は あんちゃんの愚痴を聞く
僕は あんちゃんの不安を鎮める
僕は あんちゃんの睡眠の手助けをする
僕は このようにあんちゃんの介護をしている
僕は 春風の匂いを嗅ぐ猫です

就労継続支援 B 型 フレッシュグリーン



～秋！「おひさまサンサン生き生きまつり」～

フレッシュグリーン 桑田 衣津子

10/15(土)、心地よい秋晴れの中、つくば市カピオにて、「おひさまサンサン生き生きまつり 2016」が開催されました。障害者、高齢者、ボランティア団体が協力して、スポーツやレクリエーションを行う行事です。わかばとフレッシュグリーンで、職員4名、メンバーさん7名で競技と販売に参加してきました。

今回は開会式で、フレッシュグリーンの代表として草薙拓也さんが選手宣誓に立ち、大勢の方々が見つめる中、立派に堂々と大役を果たしてくれました。



競技では、毎年楽しみにしているものが2つあります。パン食い競争とお宝探しです。競争用のパンには、フレッシュグリーン手作りのデカあんパン100個



も含まれているので、楽しさが増します！お客様が「このパン取ったよー」「重いのよね

ー」と、話かけて下さり、パンの説明や施設の話もできるので、宣伝効果有り、ですね。お宝探しは、いかにも「100均」との品々ですが、箒であったり洗濯ネットであったりと、フレッシュグリーンの中で、しっかり役に立っていますよ。

販売のほうでは、食品のクッキー、プリン、カトル・カール、ジャムは、午後少しすると完売し、やり切った感がありました。花苗も、何人もの方にお褒め頂きました。「バスだから、今回は…」と、パンフレットをお持ちになる方もあり、先につながる手応えを感じました。



皆で作上げたものを、お客様に直接販売できる楽しさを胸いっぱい感じられる時間となりました。これからも、皆で協力、工夫して、たくさんの方々に喜んでもらえる品々を作れるよう、楽しみながら頑張っていきたいと思っております。

スペース仲間

安くタバコを吸う愛煙生活



ボランペの家 金無 強

キセルでタバコを吸っている。1か月のタバコ代は850円。ドミンゴというきざみタバコだ。ドミンゴは吸いくちがガツンときて香りもバニラ、タールもニコチンも入っている。1週間に一度キセルを掃除してタールをとばす。

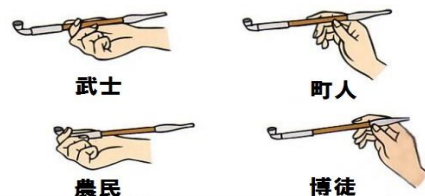
お金がなくてもタバコを楽しめる。ゴールデンバットを紙からはがし、蓋のある容器に入れ、ブレンダーに少し浸しそれをキセルで吸うやり方でもいける。お金をかければいいタバコが吸えてお金がないとガマンしなければいけないなんて時代遅れだ。ちょっとしたことで愛煙生活が楽しくなり生活の一部になる。そういったものしか良いと思わない。

キセルや、きざみタバコの入手方法はお教えしますのでご連絡ください。

【キセルの豆知識】

煙管[キセル]。日本古来から伝わる喫煙具。語源については異説もあるが、カンボジア語で“管”を意味する「クセル」がなまったものと言われる。江戸時代においてキセルは、一種のファッションやステータスシンボルでもあった。また帯刀を許されなかった町民が、既成のキセルを護身用として携帯することもあった。現在でもキセルは、時代劇には欠かせない小道具であり、有名な鬼平犯科帳を筆頭にTVドラマからマンガまで、たびたび登場する。また、歌舞伎では役柄に応じてキセルの持ち方を変えるなど、キセルが日本人の生活に深く浸透していたことがうかがえる。

歌舞伎役者の所作でわかる役柄



ゆっこら事業所一覧

事業所名	☎	所在地
本部	0297-85-4301	〒301-0834 龍ヶ崎市古城3204 古城の家2階
ゆうあいワークイン	0297-64-1335	〒301-0005 龍ヶ崎市川原代町2422-10
花農場	0297-64-1393	〒301-0005 龍ヶ崎市川原代町2422-11
古城の家	0297-85-4304	〒301-0834 龍ヶ崎市古城3204
ともだち村	0297-58-5201	〒300-2307 つくばみらい市板橋2147-1
ふれんず(本部)	(板橋マリーナへ)	〒300-2312 つくばみらい市神生530 きらくやま
ふれんず(板橋マリーナ)	0297-58-0466	〒300-2307 つくばみらい市板橋2147-4
ボランペの家	0297-57-0756	〒300-2307 つくばみらい市板橋2147-4
相談支援事業所マリーナ	0297-58-3670	〒300-2307 つくばみらい市板橋2147-4
わかば	029-836-8544	〒305-0861 つくば市台町1-2-2 谷田部老人福祉センター
フレッシュグリーン	029-875-3680	〒305-0861 つくば市谷田部4701-2